

河川砂防技術研究開発公募(地域課題分野)平成23年度採択テーマ 中間評価結果

テーマ名および概要		提案者名	評価	中間評価コメント
テーマ	利根川水系矢場川における難分解性着色物質を原因とする色濁河川の健全化	群馬大学 伊藤 司	a	研究計画のとおり順調な進展がみられる。色濁河川の健全度指標を明確にすることに留意して、進捗することが妥当と評価する。
概要	着色廃水による色濁汚染のある河川水質を改善するため、難分解性染料を含む着色水を脱色できる技術の開発と、色濁改善を評価できる水の色の評価方法の確立を行う。			
テーマ	地球電磁気を利用した土砂移動量の研究手法の開発ー常願寺川・庄川・黒部川を対象として	富山県立大学 手計 太一	d	平成24年度までに有益な知見が得られたものの、予定した計画期間内に新たな成果が見込めないため、今後の研究継続は認められない。
概要	本研究では、地球電磁気の探査と土壌の電磁物性調査を融合させた、河川横断形状と土砂堆積変化の全く新しい測定法を確立する。			
テーマ	由良川河口地形の動態とその制御法に関する研究	明石工業高等専門学校 神田 佳一	b	河口地形について洪水によるフラッシュとその制御に加えて、冬季の波浪による砂州発達と河口閉塞の制御についても考慮して、現行のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	由良川河口部の地形変動について経年的特性を抽出して砂州の動態を把握するとともに、河口地形の合理的維持管理手法を提案する。			
テーマ	大和川水系における糞便性大腸菌群の挙動	京都大学 松井 康人	a	大腸菌の起源などが明らかになっており、研究計画のとおり順調な進展がみられる。現行のとおり進捗することが妥当と評価する。
概要	大和川で検出される、糞便性大腸菌群の発生源の特定と流出機構の解明を、数値解析モデルの構築により検討する。			

評価の凡例

- a:非常に優れた研究である。
- b:優れた研究である。
- c:条件付きで評価できる(研究計画の変更、研究費の減額)
- d:次年度の研究継続は認められない(研究の打ち切り)